

産総研と地域企業

産業振興で連携

豊橋鍍金工業

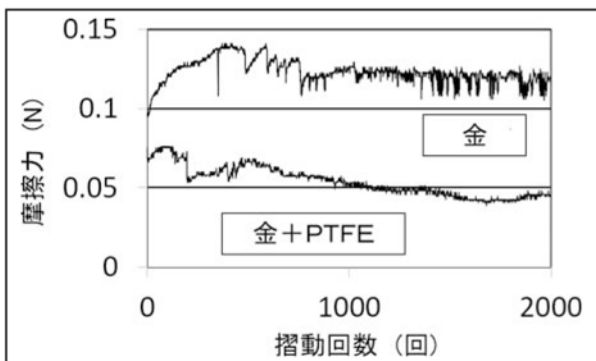
複合メッキ

コネクタや半導体検査機用コネクタプローブピンなどの電気接点・接続部品には、電気的性能以外にも挿抜性や耐久性なども多くの特性が求められる。多極化するコネクタではスムーズな挿抜のため低摩擦力が求められる。プローブでは

点部品へのメッキに特化し、ナノダイヤ一次粒子複合メッキなど多くの技術開発を進めている。一方、産業技術総合研究所機能化学研究部はナノ粒子などの分散技術に高度な知見・ノウハウを持つている。2014〜16年、両者は経済産業省の開発支援事業「サポイン」にて、複合メッキに用いる疎水性のPTFE（フッ素樹脂）微粒子へ親水性を与える

複合メッキで電気接点高機能化

PTFE微粒子への親水性付与



る。しかし、分散剤がメッキの妨害因子となる。場合同様に、分散剤の強い微粒子などでは多量の分散剤が必要であり、分散剤の選択はさきに困難になる。そのため、という産総研の全く新しいアイデアに着目し、分散メッキで開発を行いPTFEは無電解ニッケルメッキ以外にはほとんど採用されてこなかった。現在、メッキ皮膜との安定な複合化のために開発を継続しており、事業化間近である。この技術については、産総研による特許権の出願前譲渡という形をと

一言メッセージ
産総研イノベーション推進本部地域連携推進部 中小企業連携室 鈴木 孝和
豊橋鍍金は典型的な研究開発型企业と言える。新たな機能性を付与したメッキ技術を開発し、付加価値を高めた製品を世に送り出している。今後も優れたフットワークと実行力、斬新なアイデアで業界をリードしてほしい。

簡便な方法
この技術では、メッキ液への分散方法が従来よりも非常に簡便になることから、今後の開発はその成果だけでなく、社内にも新しく高度な開発手法を持ち込むという意味でも非常に有意義であった。

今後、飛躍的に電化が進むと思われる社会の中で、この技術による

(豊橋鍍金工業社長 高木幹晴)
(木曜日掲載)